日刊 動労千葉
81.7.14
No791
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一-八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

「本部」反動分子の告訴路線に対する闘いを一層強化しよう

国鉄労働運動の敵対者、『本部』反動分子一掃！

動労「本部」反動分子は、わが動労千葉の『日刊動労千葉』をもってするデッチ上げ「6・12事件」――権力へのタレコミ告訴という動労運動史上かってない反動的・反階級的暴挙に対する再三にわたる徹底的弾劾と暴露に対し、必死になって〝反論ならざる反論〟をデマ「千葉地本情報」でくりかえしている。

しかし、彼らが「6・12事件」について書けば書くほど、「6・12事件」についてふれればふれるほど自らの反動性・反階級性を全組合員の前にますますさらけ出しているのである。

われわれは、権力へのタレコミ告訴という労組としての最後の一線を踏み越えてしまった動労「本部」反動分子を一掃し、動労大改革をかちとり、国鉄労働運動―日本労働運動の戦闘的再生にむけて一層奮闘しようではないか。

反労働者的『タレコミ告訴』問題からにげまわる動労「本部」反動分子

わが動労千葉の『日刊』をもってする矢継ぎ早やのデッチ上げ「6・12事件」―告訴問題に対するるどい弾劾キャンペーンに対し、「本部」反動分子は、ますます追いつめられ、自らおかした暴挙の反動性と反階級性に対する全組合員の総反撃に恐れをなし、何んとか論点をぼかし、唯一自らデッチ上げた「具体的事実ならざる事実」にのみしがみついているのである。

デマ「千葉地本情報」（No.76・七月六日付）によると「嶋田君が自分で転んで肋骨三本が骨折すると思っているのか」「千葉動労は答えてみよ」とか「動労役員が白昼しかも職場で集団暴行をうけ入院したことが〝動労運動史上かってない〟などと転び屋・革マル分子嶋田誠をつかったデッチ上げ「骨折―入院」問題が事の本質であり、すべてであるかのように逃げ廻っている。

動労運動史上タレコミ告訴があったのか

動労「本部」反動分子よ、

動労運動史上かってないデッチ上げ「6・12事件」をもって権力に対しわが動労千葉の十名の活動家を告訴したという事実、そして船橋署の事情聴取に対し積極的に応じている事実、そして当然にもありもしないデッチ上げ事実をペラペラとしゃべりまくり、「早く動労千葉を弾圧して下さい」などと「現場検証」に立ち合い、権力にお願いしている事実について答えて見よ。

このような動労の命取りともいえる権力に対するタレコミ告訴問題についてはっきりと答えて見よ。

口先きでは、「戦闘的・階級的労働運動」とか、「権力の謀略」などといいつつ、わが動労千葉に対する組織破壊攻撃にことごとく失敗するや、権力・国鉄当局に泣きつき、わが動労千葉に対する処分・弾圧を要請し、そして、最後には、自らデッチ上げた「6・12事件」をもってタレコミ告訴という暴挙を行なってきたのだ。

一体全体、このタレコミ告訴のどこに正当性があるというのか。

答えて見よ。答えられるはずがないのだ。

さらに、彼らが唯一のよりどころとしている転び屋・革マル分子嶋田誠の〝入院問題〟について決定的な〝事実〟をもって反論する。

転び屋・嶋田誠は、最初医院に行ったとき〝三日分の薬〟をもらって帰っているのだ。そして、「これではタレコミ告訴には全く不充分」として改めて、自分の方から、再び医院に〝押しかけ入院〟したではないか。

そして、船橋署の刑事が嶋田誠を見舞いにいって、「告訴しなさい」と激励していたではないか。

これがデッチあげ告訴を示すなによりの証左である。

このように、彼ら「本部」反動分子が「6・12事件」を書けば書くほどボロを出し、ますます追いつめられているのである。

全ての組合員の皆さん。

今こそ、転び屋・革マル分子嶋田誠・斉藤吉司・佐藤次男らの告訴人を絶対に許さず、一切の権力の弾圧と介入を、総力決起をもって粉砕しよう。

国鉄労働運動の敵対者・権力の水先案内人「本部」反動分子を一掃し、動労大改革へさらに前進しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！